

事務局だより

会員数（2025年6月1日現在）

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
38	29	29	29	125名（Eグループ会員：113名）

退会 3名 並木 繁雄氏（湘南）、島田 秀雄氏（湘南）、倉島 大輔氏（県央）

2025年度運営委員の業務分担

6月22日開催の臨時運営委員会にて協議した結果、2025年度の運営委員の業務分担を次のように決定しました。（詳細は運営委員会議事録を参照ください。）

担当	正	副	主な業務
代表	大澤委員	竹内委員	じゃおクラブ代表業務 ・ 対外団体渉外・広報業務、地域じゃおとの調整
総会担当	大澤委員	竹内委員	総会開催のための業務 ・ 議案書作成・管理・送付 ・ 議事録の作成・公表 ・ 議決権行使の実施・管理
運営委員会	坂井委員	加藤委員 竹内委員	運営委員会関係の業務 ・ 運営委員会議案取り纏め ・ 運営委員会議事録の取り纏め・修正・公表 ・ じゃおニュース本部関係原稿入稿
じゃおニュース	竹内委員 （編集担当）	安田委員 （掲載担当）	じゃおニュースの発行
会員管理	高橋委員	宮越委員	・ 会員名簿管理（入退会管理） ・ じゃおグループメール管理
会計	増子委員	加藤委員	・ 年会費徴収 ・ 出納業務 ・ 予算・決算・会計監査資料作成
ホームページ	竹内委員	安田委員	・ ホームページの企画・制作・運営 ・ サークルスクエアの運営
監事	島村監事・土屋監事		会計監査・業務監査

2025 年度の運営委員会開催予定

1. 2025 年： 6 月 22 日（日）、7 月 20 日(日)、9 月 21 日(日)、11 月 16 日(日)
2026 年： 1 月 18 日(日)、3 月 15 日(日)、5 月 24 日(日)（総会前）
10:00～12:00 で、原則としてオンライン開催です。（6 月 22 日のみ対面開催しました）
2. 議長・書記は、運営委員による回り持ちです。
3. 運営委員会が月末開催の場合を考慮して、じゃおニュースの発行目標は 5 日とします。

議決権行使結果の報告

1. 2025 年も地域の希望に基づき非 E メール会員以外の 4 名を追加して、合計 17 名に総会の開催案内や議案書などを郵送しました。
2. 2025 年の出席・委任・議決権行使を合わせた数は、湘南が 70%（8%増）、県央が 67%（24%減）、ベイサイドが 62%（6%減）、多摩・田園が 83%（10%減）で、全体で 70%（7%減）でした。
（カッコ内は 2024 年比）
3. 2025 年度はオンラインにて「議決権行使」するか「委任」するかを選べるようにしました。どちらか一方を選んでもらえばよかったのですが、結果として「議決権行使」と「委任」の両方を選択した人が欠席者の 77%でした。両方を選択された場合は「議決権行使」を優先しました。
4. 議決権行使をしない会員、議決権行使が遅い会員が、ほぼ同じ人に固定される傾向があります。

【振り返り】通常総会に伴うご意見への対応・議案書発送と 6 月の臨時運営委員会など

1. 第 34 回通常総会の議決権行使に合わせて、運営委員への励ましのお言葉や、じゃおクラブの活動についてのご意見を頂戴しました。日頃より関心を寄せていただき、ありがとうございます。
頂戴したご意見について、臨時運営委員会にて話し合いました。必要に応じて、地域じゃおの運営委員からご説明するように取り組んでいますので、よろしくお願ひします。
2. 議案書を郵送する場合、発送から議決権行使の返信が届くまで最短でも 1 週間以上かかることがわかりました。これは日本郵便の配達までの期間が長くなったことや、土日の配達が廃止されたことが影響しています。議案書の送付は「郵便」以外に手段がありませんので、議案書の発送を早めるよう取り組みます。（※ 第 34 回通常総会では 17 名の方々に郵送しました。）
来年以降は、運営委員候補の内定者の本部への連絡や地域じゃおの資料の提出などにおいて、地域じゃおの皆様に一層のご協力をお願いすることになります。よろしくお願ひします。
3. 来年より、6 月開催の臨時運営委員会の開催告知を早めます。これまでは通常総会開催後に新しい運営委員と監事で、臨時運営委員会の日程を調整してきました。しかし、お仕事をお持ちの運営委員もあり、従来のやり方では、運営委員会の開催日を決めるのが困難になりました。このため、総会での運営委員選出を待たずに運営委員内定者には臨時運営委員会の開催日をお知らせすることにします。

次回の運営委員会と HP サークル

運営委員会 日時：2025 年 7 月 20 日（日）10:00～12:00 オンライン開催
議長：宮越委員 書記：安田委員

HP サークル 日時：2025 年 8 月 10 日（日）15:30～17:00 オンライン開催 議長：竹内委員

会員だより

私にとってのじゃおクラブ

湘南 太地 秀晴

そもそも三年前（74 歳）のことになりますが、一人暮らしの私としては料理を習っておいたほうが先々良いのではと考えていました。ある日明治公民館でのサークル活動行事版を見ると、男の料理があり早速申し込みました。ところが料理教室があるのは年二回であとは農園活動とのこと、エーッ!?と思いましたがどうせ暇だからやってみようかと、軽い気持ちで参加いたしました。以下私が参加しているじゃおクラブ活動報告です。

農園活動は作物らしきものを一度も栽培したことのない私としては、何をやってよいのやら全くわからず、できることといえば草取りくらいしかできませんでした。しかし、三年が経った今は平均年齢 80 歳に近い諸先輩からの指導を基に少しずつ作物の世話の仕方を教わりながらやっています。とにかく身体を動かしての作業は日ごろ運動しない私にとっては、一番の健康だと思ってやっています。一号畑から見る富士山の眺めはとても素晴らしく、気持ちを穏やかにしてくれます。

年三回の収穫祭は大鍋で作る料理のお手伝いができるのを楽しみにしています。ここでの昼食は永田農園さんに来ている外国の方も招いての会食になり、ちょっとした国際感覚が味わえる場でもあり皆さんとの楽しい食事のひと時です。

さらに花見の会もあり鍋料理、お団子もありの桜の木の下でのお花見は、私にとっては最高の慰安であり今年も健康でいられた事に感謝しながらのお花見です。

子供工作は明治公民館と茅ヶ崎こたん祭りに行うイベントで、作品の万華鏡や CD コマの材料作りから始めます。本番での工作手順はその子供さんに応じたスピードで作業をしていきます。作業をしながらの子供達の生き生きとした表情や集中している眼の動き、さらには出来上がったときの嬉しそうな様子を見ることができるとも楽しみの一つです。

CSS は男の料理の午後に開催される教養講座で今年 2025 年 6 月は介護に備える為のセミナーでした。いつまでも健康で認知症にならない予防として、講師の先生からリスク表（運動・文化・社会活動の3つをバランスよく）のご紹介などもありました。しっかりやっていけば、ピンコロの死が待っているとのことだそうです。大笑

我が家の同居人(?)は雌猫のタマ子さん、年齢は推定 9 歳（人間換算 52 歳）のオバサンです。野良出身のせいとか人を全く信用しないし迎合もしない同居人です。一人暮らしの私にとっては唯一の話し相手ですが、いないよりは退屈しないので良いのかなと。



独自の趣味として、フルートを習い始めて 3 年余り。

この楽器は眼（楽譜）と指と息を使うのでボケ防止には最適かと。毎週フルート教室での合奏を楽しみに参加しています。こんな様子であつという間に半年が過ぎ、一年が過ぎ、三年が過ぎ、そのうちあちらの世界に「それでは皆様ごきげんよう!」お先に失礼ということになりそうです。

ほかに、じゃおクラブのこれ以外の活動やイベントとして俳句の会、グリークラブ、投資の会、名所散策、コンサート鑑賞、工場見学等がありますが心の余裕ができれば参加したいものです。

新天地へ再就職して（私の夢実現の 1 step）

湘南（宇都宮市在住） 田邊 修

今年2月末に再就職の為、湘南台を離れ宇都宮に引っ越しました。今回、転職と引越しが同時となったので、慌ただしく引っ越しをすることになりました。そして3か月経った現在、ようやく生活は落ち着き新たな仕事にも慣れてきたところです。

住居地の環境・・・スマートシティと呼ばれている新興住宅地

移住した場所は、宇都宮から LRT と呼ばれる次世代型路面電車で約 30 分のところにある”ゆいの杜”というところ。ゆいの杜は、LRT 沿線を中心に住宅と仕事場である工場及び大学、高校が一か所にまとまったスマートシティと呼ばれる地域の中にある町の一つです。元々一面畑と雑木林であったところで、1997 年から開発された新興住宅地です。

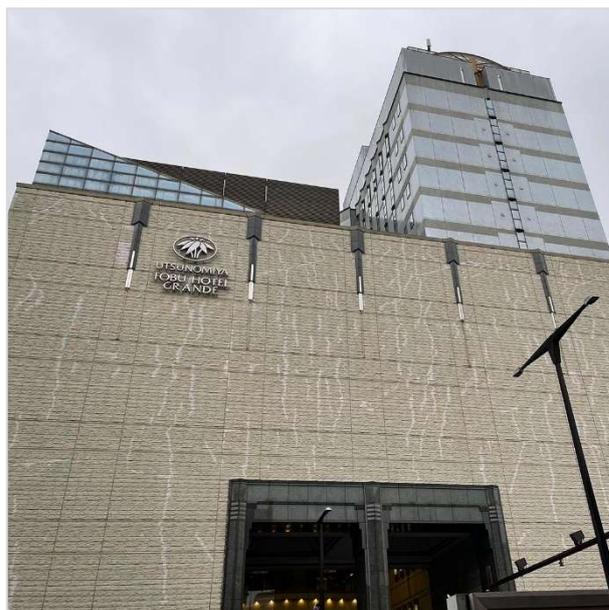
仕事の概要・・・複合ホテルでの設備管理業務



再就職先は、東武鉄道グループの東武ビルマネジメント会社で駅舎、ビル、ホテル、百貨店等の設備管理を担っている会社です。職種は前職と同じ電気関係ですが、ビル管理業務はメーカーの業務と全く異なり、業務内容や職場の文化の違いに当初は戸惑いの毎日でした。

今の職場であるホテルは 24 時間 365 日管理業務を行う必要があるため、定時で帰宅できる代わりに土日・休日関係なく普通に夜勤有りのシフト勤務です。3 か月経過してようやく業務に慣れてきたところですが、まだまだ覚えることがあり、すべてを把握するまでにはあと半年はかかりそうです。

なお、職場のホテルと就職先は同じ東武鉄道グループですが、ホテルに就職した訳ではないので将来また違う職場に転籍になる可能性があります。



ホテル概要・・・老舗の複合ホテルだけにトラブルと業務が多岐に

職場である宇都宮東武ホテルグランデは、12階建てのホテルで、①客室が約200室、②レストランが4店舗、③セミナーや宴会ができる大ホールが2室、④小ホールが4室、⑤クリニック、⑥結婚式場も完備した複合ホテルです。建物は築30年経過しているので各種設備も古く、故障している機器もあり騙し騙し運用しているのが実情です。本来、業務内容は、



①空調管理、②電力監視、③冷温水設備監視、④防災監視、⑤エレベータ、エスカレータ監視ですが、ホテルの人件費削減の為に本来ホテル側で行うべき、①客室内の補修対応、②レストラン厨房設備の修理対応、③館内の照明器具の故障対応や電球交換対応、④トイレ等水回りの修理も請け負っているため、さながら何でも屋になっている状況です。

将来に向けて・・・理想は CCRC : Continuing Care Retirement Community にプラスα

先日、新聞に日本版 CCRC が立ち上がっているというニュースを目にしました。それは、まさに私が生涯をかけてやりたいことに近いもので、高齢者が健康なうちから入居し終身にわたって暮らすことができる生活共同体のことです。多世代共生、地域とのつながりを目指し政府が過疎地をメインに補助金を出し開発を進めている新たなライフスタイルの一つです。

私が考える理想は、その CCRC に対してさらに同じ趣味嗜好の仲間が集まり、半自給自足の生活ができるライフスタイルです。居室はキャンピングカーのようなイメージのものを自前で用意するか、レンタルし、電気・水道・ガス・通信等のインフラや水回り等は一括管理し住民で共同利用することで生活コストを下げ、プライベートを重視しながらも、程よい距離間で最後の時まで安心して楽しく暮らしていけるライフスタイルを実現することです。その共同住居である建物を運営管理するノウハウを身につけたいと思っていた時、会社都合で転職できるチャンスが訪れ、ビル管理の仕事ができる今の職場に運よく就職することができたという次第です。

もちろん j a o に参加した理由もこの夢実現の経験を得たかった為でもあり、農園経験やボランティア活動を通じて j a o の皆さんに暖かく迎え入れて頂いたことは今も感謝しています。

さいごに・・・生涯をかけて実現したい夢

日本のライフスタイルは大家族から核家族に、そして一人暮らしが増加しつつある現代社会ですが、親しい仲間や子供から高齢者まで幅広い人たちに囲まれて安らかに暮していける新たなライフスタイルを実現することが、私の生涯をかけてやり遂げたいことです。それは決して一人で実現できるものではなく、きっと私と同じ想いの方がいらっしゃると思っておりますので、その時が来るまでスキルアップと具現化に向けた構想を練り上げたいと思っています。

また、数年以内に発災が危惧されている南海トラフなど大震災が起これば、必ず多くの方が住居を失うはずなので、その人たちを受け入れる施設としての機能も持たせることも目標の一つです。

じゃお湘南

活動報告－「男の料理」に参加して



本年6月1日日曜日「男の料理」が藤沢市明治市民センターで行われました。今回のメニューは「おやじの作るハンバーグ、ポテトサラダ、ミネストローネ風スープ」でしたが、とりわけハンバーグは本格的なものを作ろうとの意気込みで4月から準備が進められました。

事前にイベントの幹事4名はレシピを参照して実際に調理と試食をして、より良いものにするようレシピ、食材の一部を変更するなどして当日に備えました。同日の午後、

同じ場所で開催される「CSS」(注)で講師をされる2名の方にも食事をご一緒していただくことになっておりましたので参加者16名が18人分を調理しました。

「男の料理」はじゃお湘南の活動のなかでも長い歴史を持つものであり、参加者の皆さんはグループの常連のベテランが多く、一組4名の参加者が4台の調理カウンターに分かれてそれぞれ手慣れた感じで調理されていました。筆者は初参加で、まごつきながら、自分の役目をこなすのに精一杯でした。



「男の料理」の参加会費は基本的に食材費、市民セ

ンター調理室使用料ほか実費を頭割りします。参加募集時には会費1,000円で案内しましたが、昨今の食材価格高騰の影響でコスト管理は非常に厳しくなっておりました。幸い、じゃお湘南の農園活動で収穫したジャガイモ、玉ねぎ、長ネギを提供してもらおうよう調整することができて、会費を900円に引き下げることができました。

楽しく調理して、楽しく食事を共にすることができて良かったです。

(湘南 夏目 正明 記・写真 古岡 實)

編集者注：湘南のCSSは豊富な経験、様々な知識・趣味を持つ会員の方々の話を聞き、相互啓発しようと始められた勉強会です。最近では広く会員の知人、公的機関の方々にも講師になっていただいています。年に2回、午前に「男の料理」午後「CSS」を開催しています。

藤沢歴史散策・海を歩いて江の島へトンボロ体験と100年に一度の花

昨年度から始まったじゃお湘南の「藤沢歴史散策」。今年前期は、江の島に現れる「トンボロ（陸繋砂州）」の出現にあわせた特別企画を実施しました。

トンボロは、潮の干満により海底の砂州が姿を現し、島まで陸続きになる現象です。特に大潮の新月や満月の日に現れやすく、春から初夏には昼間に、秋から初冬には夜間に見られます。

6月10日（火）、最大の干潮が「10時31分」と予測されていたこの日、小田急片瀬江ノ島駅に13名が集合。じゃお湘南の新藤さんと、江の島・藤沢ガイドクラブの方の案内で出発しました。

時折小雨が降る中でしたが、海岸に出る頃には陽が差し、雨も止みました。さざ波立つ足元に、江の島へと続く砂州が現れました。海岸に寄せた波が返し、江の島で左右に分かれた波とぶつかり合いながら、静かに寄せ来る波がくるぶしに届く心地よさでした。（写真右）

江の島のトンボロは、徳川家康が慶長5（1600）年、息子秀忠の病氣平癒を願って江の島を訪れた際にも歩いたと伝えられています。

今回は、かつて歌川広重が浮世絵「通称：江の島詣」に描いたような完全な陸路にはなりませんでしたが、裸足やサンダルで波を感じながら江の島へ渡るといって、初夏の湘南らしい体験ができました。この季節、暦を探せば日中の大潮の日がありますので、調べて出かけてはいかがでしょうか。

こうして、お馴染みの弁天橋を使わずに江の島に渡り、青銅の鳥居をくぐって仲見世通りを歩き、江の島エスカーで江の島神社・辺津宮から奉安殿、さらに中津宮を巡りました。その後に、もうひとつの見どころがありました。



実は出発前に「江の島サムエル・コッキング苑」では藤沢市の天然記念物「タイミンチク（大明竹）」の花が開花していると聞いていました。竹の花は約100年に一度しか咲かないとされ、今回のような開花は極めて珍しいとのこと。高さ10メートル近い竹の枝先に、小さな稲穂のような薄黄色の花がありました。100年に一度の花を見ることができなんて、実に幸運です。（写真左：黄色の円内中央が竹の花）

散策後は藤沢駅近くの店でランチを兼ねて懇親会を楽しみました。ビールなども付けて不思議な自然現象を振り返り、楽しく語り合いながら締めくくりました。

（湘南 増田 勝雄 記・写真）

じゃおベイサイド

十二所から名越切通を歩く

金澤八景シティガイド協会の代表を務めた村尾会員にガイドをお願いしているウォーキングの第3回目を5月24日（土）開催しました。先回の終点であった十二所神社に隣接する浄妙寺や報国寺から名越切通を終点とする鎌倉の裏庭を巡る4時間ほどのコースです。参加者10名で金沢八景駅から鎌倉行きのバスで出発点の十二所に向かいました。

コース概要

足利公方邸旧蹟：源頼朝が幕府を開いた時、足利義兼がこの地に住んだことを示す石碑です。以後、室町幕府の関東10国の統治機構であった鎌倉府の役所群を含め200年以上にわたって足利尊氏の子孫がこの地に住み続けたそうです。

浄妙寺：源頼朝の家臣であった足利吉兼が文治四年（1188年）に創建した臨済宗建長寺派の古寺。建長寺を開山した蘭溪道隆の弟子である月峯了然が住職となってから現在の浄妙寺となっています。

報国寺：仏教臨済宗建長寺派の寺院。正式には功臣山報国建忠禅寺といい本尊は釈迦三尊です。境内に孟宗竹約200本からなる竹林がある。境内に茶席があって竹林をみながら抹茶を楽しめる魅力的なスポットとしてSNSで海外にも紹介されています。この日もインバウンドのお客さんを含め観光客がいっぱいでした。

旧華頂邸：昭和4年に華頂宮博信侯爵邸として建てられたもので、戦前の洋風建築としては鎌倉文学館に次ぐ大規模な建物です。当日は公開日で敷地内の樹木、幾何学式庭園と一体となり、往時の華やかな暮らしを垣間見ることができました。（写真右）

子ども自然ふれあいの森：ここにて昼食。

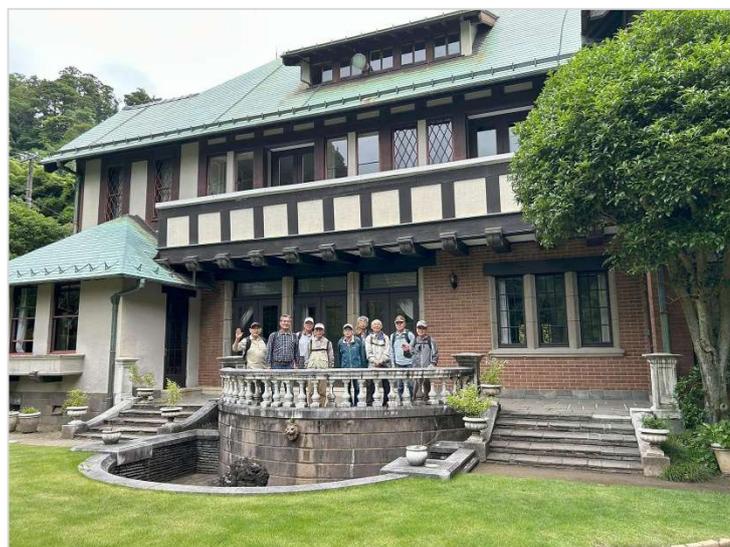
石廟とお猿島の大切岸：残念ながら道に迷いスキップとなりました。

まんだら堂やぐら群：名越切通にあり150穴以上が集合住宅のように重なる墳墓で鎌倉・逗子最大規模のやぐら群です。当日は公開日でやぐら群の規模の大きさを実感できました。

名越切通：神奈川県鎌倉市南東部から逗子市に抜ける道。鎌倉七口のひとつに数えられていて源頼朝の平家討伐の挙兵にも呼応した三浦一族の領地へ通じる重要な道でした。鎌倉七口は鎌倉幕府の防衛拠点であり先回訪れた朝夷奈切通、今回の名越切通を含め極楽寺坂切通、大仏切通、化粧坂、亀ヶ谷坂、巨福呂坂からなります。

名越切通を過ぎると逗子市、宅地開発が進んだ亀ヶ岡団地から京急バスにて逗子駅に向かい帰路につきました。大場さんのデータによると約18,000歩、11キロ、4時間ほどのウォーキングでした。

（ベイサイド 土屋 佳一 記・写真）



じゃお多摩・田園

ガイドツアーで歩く隠れた江戸のパワースポット～仲間と街歩き～

入梅を迎えた 6 月 13 日（金）、曇り空の中「仲間と街歩き」を実施しました。今回は「あじさい咲く白山神社と江戸のパワースポットを巡る」と銘打ってのガイドツアーです。毎回、ガイドツアーは人気で、今回は多摩・田園以外の参加者も多く、合わせて 17 名での実施でした。

ツアーは、白山神社からスタートしました。白山神社は、加賀（今の石川県）の一の宮白山神社を勧請したのが起源です。東京二十三区内のあじさいの名所としても有名です。この日は「あじさいまつり」の期間中とあって、約三千本のあじさいが色とりどりに境内を彩り、多くの人が訪れていました。

続いて井原西鶴の『好色五人女』で有名な、「八百屋お七」ゆかりのお寺や神社を訪問しました。江戸時代、火付けは死罪でした。ぼやで済んだとはいうものの、火付けで捕らえられたお七は、規則通りに火あぶりの刑に処されました。数え 16 歳の少女でした。憐れんだ人々は円乗寺にお墓を建てたり、ほうろく地藏菩薩を建立して供養したりしました。お墓や地藏菩薩には今も献花や線香が絶えません。

目赤不動尊は、元は伊賀（今の三重県）の赤目にありました。その後、駒込の動坂（どうざか）に移転していたところ、鷹狩に来ていた三代将軍家光の目に留まり、命を受けて「赤目」から「目赤」と改名したそうです。目赤・目白・目黄・目青・目黒は「五不動」と呼ばれます。

曹洞宗の「吉祥寺」には、江戸時代、「梅檀林」（せんだんりん）と呼ばれる僧侶の養成機関がありました。約千人の学僧が在籍していたと言います。戦災をくぐり抜けた山門や築地塀は江戸時代の姿を残しており、広大な境内に、往時の隆盛を偲ぶことができます。「梅檀林」は後に駒澤大学になりました。

江戸時代、都立駒込病院の地には鷹匠屋敷があったそうです。縁起の良い初夢として「一富士・二鷹・三茄子」と言われますが、これは駒込付近から富士山を望むことができたこと、鷹匠屋敷があったこと、駒込の茄子が名物であったことから来ているそうです。（諸説あります。）

ツアーの最後には、駒込富士神社を訪れました。駒込富士神社には大きな富士塚があり、「駒込のお富士さん」として、江戸の火消の信仰を集めました。「まとい」や、「れ組」「九番組」の刻印がある石塚があります。この日は富士塚の急階段を登りました。（写真：駒込富士神社の御神木、カヤの樹を背景に）

参加者からは「駒込の歴史や伝説を説明してもらえ、面白かった」との感想が寄せられました。文京区観光ボランティアガイドの皆様、熱心なガイド、ありがとうございました。

本郷台地の下から歩き始め、本郷台地をたどりましたが、途中、急坂があって、参加者の方々にはご負担をおかけしました。皆様のご協力で、無事歩き通すことができました。お疲れさまでした。

（多摩・田園 竹内 純一 記・写真）

